

令和5年度第7回 印西市市民活動推進委員会 会議要旨

1. 開催日時 令和6年1月24日（水） 午後2時～午後3時30分
2. 開催会場 印西市文化ホール 大会議室、多目的室
3. 出席者 戸川和成委員長、市場勝巳委員、岡野誠委員、小林宏委員、矢野眞理委員、奥田信康委員、棚橋明委員、志村はるみ委員（以上8名）
4. 事務局 市民活動推進課・川島課長、岡本課長補佐、本田係長、伊藤
5. 傍聴者 0名（定員5名）
6. 会議内容
 - 1 開会
 - 2 議題
 - （1）令和5年度実施（令和4年度採択）の企画提案型協働事業について（報告）
 - （2）令和5年度企画提案型協働事業の審査について（振り返り）
 - （3）令和6年度の企画提案型協働事業の実施方針について
 - （4）その他
 - 3 閉会

7. 会議要旨

(1) 令和5年度実施(令和4年度採択)の企画提案型協働事業について(報告)

《事務局説明》令和5年度実施(令和4年度採択)の企画提案型協働事業の事業進捗について、団体及び関連課から報告を受けた進捗内容を、資料1-1、資料1-2及び当日資料(事前意見)に基づき説明した。

《委員質問・検討》

委員：資料1-2について、当初の計画があるはずなので、その進行について触れていただいたほうが、理解が進むかなと思います。また、何をしているか把握できるように、感想と実績を分けて頂ければ読みやすいと思います。事実は次につながる情報なのでそのまま書けば良いと思います。

委員：当日資料3ページ、体力回復のための産前産後ケア教室事業について、定性的な目標なので、測定方法や達成度を見るのは難しい。その中で担当課は課題感を上げている一方、実施団体はそう書いていなかったのも、お互いの意思が合致しているのか、と思い質問しました。今回お聞きして両方の目標だということがわかりました。大事な目標であれば、どういうことをやれば達成に近づくのか、達成の具体策が、市と団体で共通になればと思います。そうすれば、それをどう行動に移せばいいのか、ということが出てくると思うので、具体化する工夫があればと思います。

参加者同士の横のつながりを作る、となっているなら、それは例えば事業の際にどんな行動が出れば良しとするか、などです。ラインの交換をしたらいいのか、握手したらいいのかとか。逆にそうするために、参加者同士が少しその部分に話し合う時間を取るとか、定性的でも具体的な方策が色々考えられると思います。定性的な場合でも、ブレークダウンをして目標値を設定して、それが今度うまくいくかどうかは結果論の話なので、定性的なものをどうやって実現するかを数で知ることは大事ですので、指摘させていただきました。

委員：資料1-2、グリーンカーテンでゼロカーボン「CO2を減らそう！ストップ温暖化大作戦！」について、是非指導側がレベルアップされたほうがよろしいかと思います。環境問題はCO2の量だけでなく、いろんな因果関係があってその中でどう落としどころをつけるかを分かってほしい。グリーンカーテンをただ増やせばいいというものではない。そういうことを分かったうえでどう伝えるかという話だと思います。例えば良いものを作る中で大量のゴミが出ているのだったら、果たしてそれがいいのかという話があるとあります。もしくはネットを買っても、それがプラスチックの問題を引き起したりしている。事業実施したからそれでいい、とはならないほうが良い。

事務局：今回振り返りについて、委員会で頂いた意見について協働事業関連課へフィードバックしたいと思います。

委員長：グリーンカーテンは指定テーマですよね？ 当日資料を見るとCO₂の排出量で事業評価するのではなく、意識啓発としてこの事業の位置づけられたのであれば、環境配慮行動を促すのは事業計画に含んでいるということですよね？ 配慮行動の増減は指定テーマ型なのでおそらく市で、そういうエビデンスや資料を出してくださいと言えるのではないのでしょうか？

二つ考え方があって、配慮行動でいいのか。配慮行動であるなら何で測るか。最終的にはCO₂削減があるんでしょけれど、その段階を見越しているのか、その前段階で達成を考えるのかは、今後検討課題になると思います。

委員：資料等を見ると、環境保全課は配慮行動が出来たと記載しており、団体も計画を超える成果が出たと書いてあるので、そういう意味では環境に対する意識が市民の参加によって手応えとして感じられたと読み取れるので、両者とも共有して実施したと見えます。ただタイトルでCO₂を減らそうと書いてあるので、タイトルと中身のこう整合性をつけてほしいという話です。

委員：産前産後ケアの関係ですが、子育て支援課や子育て世代包括支援センター、保健センター等との兼ね合いを教えてください。

事務局：産前産後ケアいんざいは健康増進課・保健センターと協働を実施しています。

委員：国際交流協会の事業について、いま中国語話者が一番多いのでしょうか。他に不自由を感じている人はいないのでしょうか。困っている人の規模が分かりませんが、不自由を感じないように気を配っていただければと思います。ゼロカーボンについてですが、種・苗の配布、ネット代は委託費の中に入っているのでしょうか？

事務局：種・苗は委託費に入っています。ネットについてはやる方が用意していると思います。

委員：ネット代も今後入れられると良いと思います。竹袋池の掬い上げはどのくらいの面積実施しているのでしょうか。

事務局 年間報告の中で報告させます。

委員：資料3-3の過去平成17年からの実績について、支援センターに置いてあり自由に閲覧できるのでしょうか？ 市民へ広く知らせてこういう事業をやっている、と勧めたほうが良いと思います。案件が少ないと感じています。

事務局：支援センターには協働事業の報告等の場は設けていない。委員会で報告したものを行政資料室等で閲覧するのみです。見せ方の工夫という話であれば検討していきたい。

委員 印西市広報での掲載はされている？

事務局 広報等で掲載した時期としていない時期があり、今年度は掲載していません。

(2) 令和5年度企画提案型協働事業の審査について(振り返り)

《事務局説明》昨年度との比較やアイデア審査で落選となった団体に対してのアプローチについて、資料2-1、資料2-2及び資料2-3に基づき説明した。

《委員質問・検討》

委員：私の考えですが、アイデア審査で落選となった放置竹林の事業ですが、提案を受ける中、この事業のどこに協働があるのかと考えました。放置竹林は社会問題になっています。具体的には道路際の放置竹林が倒れ通行止めになったことがある。視点を変えて、この提案と道路管理とか、誰かがうまく課題解決に向けて挑戦すれば協働事業に格上げされたんじゃないかと思います。誰がそういう知恵を働かせるか。やっぱり協働の知恵を働かせる人がどこかにいないと協働が進まないと思います。市の部署にそのような視点を持ってもらい、提案があった時に逆に行政の側が食いつくように、研修の中で伝えてもらえたらと思います。

(3) 令和6年度の企画提案型協働事業の実施方針について

《事務局説明》令和6年度の企画提案型事業のスケジュールや、令和6年度の企画提案型協働事業要領(案)及び審査の変更案について昨年度と比較しながら説明した。

《委員質問・検討》

委員：指定テーマにおいて3年以上事業継続している提案にあってはアイデア審査を免除することができるという事務局案について、一般的に公共の補助金事業は無期限ではなく、期間限定で数年以内に終わるものと考えます。協働事業の時間が長く続くのは割と珍しい。予算の上限を設定することで、内容が新陳代謝していく側面もある。印西市だと協働の事業数も少ないし、予算も余裕があることを理由として、協働事業を長く実施するのも手法としてありえますが、本来であれば単年度事業なので、アイデアの内容についても、去年と一緒だから通すという話ではないと思います。基準に適合しているので通す、であればいいと思いますが。

もう一点が、審査側として提案数が増えると負担も増えますが、それは審査の方法をかえるなど別の切り口の仕方もあるのかなと思います。

あえて免除することが、そのテーマ自体をずっと長く続けたいと思われているのか、提案が続けばそれを止める必要がないということになるのか、事業の期間設定の考え方はどのような方針で今進めているんですか？

事務局：事業の期間設定の考えは特段ありません。考え方として一つは指定テーマに応募した団体が昨年度と同様に事業継続していることから、ある程度事業を継続できる規模があること。もう一つ

委員会のご意見いただく部分として指定テーマに対して書類提案書が合致しているかどうかというところを担当部署とチェックシートもつけて、書面で審査していただくというところが必要だと考えています。

委員：同じ事業者でやるのであればこの委員会関係なく担当課が直接受けてやれば良いと思います。

事務局：市民活動推委員会でも審査いただくことが、団体との随意契約の理由にもなっていますので、委員会で選定するプロセス自体は必要だと考えます。

委員：継続をする必要性の審査を厳しめに設定された方が良いと思います。昨年の実施状況が適切であったということと、事業の継続を実施側も望んでおり内容も適切である、だから内容を応募書類時に確認する形にすれば軽減できると思うんですね。だから、その立て付けをしっかりとやっていただければ簡略化することにより異議はありません。ただ実際問題アイデア審査を省略した提案は次の最終審査で落とせないと思います。

事務局：6月中旬の第2回委員会の中で評価がございます。団体の前年度の事業評価をするところなのでどこまで具体的な評価ができるかだと思います。計画等具体的なものがでるのは最終審査の第6回になります。

委員：例えば竹袋の事業であれば、周辺を保全してきれいにしましょうという提案が出てきて、ここがポイントみたいなものが出てくる。それと、昨年度の実績を踏まえて、それを受ける担当課自体の例えば前向きなコメントみたいなものがあれば、それは判断できるかもしれない。

要はこの三つがあれば、もうアイデア審査をしなくてもよくなると思います。私の意見なので、皆さんの意見とすり合わせないといけないとは思いますが、それぐらいのチェックがあった方がはっきりすると思います。だから継続の提案かどうかは応募の時に提案者が選ぶんでしょうね、きっと。

委員：アイデア審査の免除というより市の方針ですね。同じものを継続するっていうふうに相当するのか、波及効果を期待して継続とするのか。

事務局：指定テーマ自体は各担当課の施策や事業に基づくものなので、そうすると昨年度より今年度の指定テーマ自体がどこまでバージョンアップしているのかは少し疑問です。あまり変わらないと考えています。

委員：指定テーマのアイデア審査の考え方ですが、最初疑問だったのは、市が指定テーマとして出すということは、すでにそのテーマはアイデアではない・アイデア審査には当たらないんじゃないか、

と私は思っていました。指定テーマにエントリーしたいという団体が、指定テーマに沿った計画を出してくるのであれば、それはそのアイデアが妥当であるかどうか・市の政策として妥当であるか、は判断する必要はないんじゃないかと思う部分がありました。けれど、今腑に落ちたのが、私は市が出した指定テーマに対して、どれだけ提案が接近しているかということ判断するのがアイデア審査である、と考えます。そう定義すれば、今回削除すべきかどうかは別として、この指定テーマに対して私たちはこうやりたいです、ということが、市の考えと合致しているかどうかを判断する機会が必要だと思います。毎回同じ提案の団体はありますが、状況が変わる中で、提案者がそこにどう寄り添うかということでアイデアを出していただければ、アイデア審査の価値はあると思います。また、指定テーマと団体が一緒に長くやるというスタンスに思われかねないのは少し疑問に感じます。

委員：アイデア審査の免除をできることを今回の委員会で決めるんですね。プレゼンを免除ということですか？ 審査自体は行う？

事務局：おっしゃるとおりです。プレゼンの件数が多いのでそれを軽減し、他のものを選ぶことに専念できるという理由もあります。

委員：現在ボランティアが減って働く人が増えてきている現状がありますので、人手が足りず、実施内容がきつくなると思います。特に千葉県は70歳でも働いている人が多い。現在実施している団体を何とか引っ張って継続させる、できるだけ長い打ち合わせを実施して、団体の活動を取り入れることが必要だと思います。

委員：プレゼンを免除できる、ということであれば納得します。

事務局：4月の審査会で最終決定としたいと思います。また、第2回委員会における事業評価の際、事業計画やスケジュール等の評価について、様式を検討し見える化を図っていきたい。

委員：提案書について、書類で提出してもらいますが、よくわからないことが多い。予算書が一番団体が何がしたいのかわかるので、それが見える簡易的な予算書・内訳を提示するような書式としてほしいと思います。

事務局：時点によって必要な内容が変わると思います。アイデア審査は13・14ページのみを使用し、最終審査では修正した13・14ページ及び16～18を使用します。

委員：13ページの提案内容（予算の概算も記入）とあるのでここを工夫してはどうでしょう。一番大

きくお金を使うのが何かを知りたいです。

委員：注記の形で、21・22ページを参考として主な品目と金額を何に一番使うのかを記載してもら
うのもどうか。また物品項目もまとめずに具体的に記載してほしい。

委員：14ページも同じように「予算の概算」を出してほしい。積算できる団体の実力は欲しい。

事務局：わかりました。項目別の記載等に修正して4月の審査会に諮りたいと思います。

(4) その他

《事務局説明》

資料4-1に基づいて報告を行った。

《委員質問・検討》

なし。

以上

令和6年1月24日に行われた、印西市市民活動推進委員会の会議録は事実と相違ないので、こ
れを承認する。

令和6年2月22日

会議録署名委員 委員長 戸川 和成